Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2025年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科	
科目名称	環境保全園芸論							授業形態	講義
科目コード	710034	単位数	2単位	配当学年	2	実務経験担当教員		Active･L	
担当教員名	山口　健一							ICT活用	

授業概要	２１世紀は環境の時代と言われているが、園芸植物の生産においても環境と調和した持続可能な循環型栽培システムを確立することが求めている。本講義では、園芸植物（野菜・果樹・花き）の栽培における環境上の問題点を整理するとともに、環境に配慮した土つくり、施肥、病害虫・雑草防除、資材リサイクルについて実践的な知識を習得することを目的とする。
関連する科目	履修前：環境保全型農業論 履修後：農薬科学・総合防除論
授業の方法と進め方	毎回の授業内容を口頭でレクチャーしながら、要点を板書する。また、重要箇所については、データ等関連する資料を配布して説明する。 受講生は毎回授業ノートを作成し、配布資料をファイリングしてすすめる。
第1回	０１．講義内容とその進め方 環境保全園芸について授業の概要を説明する。
第2回	０２．園芸生産と自然環境 園芸生産の特徴と環境上の問題について学ぶ。
第3回	０３．環境保全園芸技術〔１〕土つくり 環境保全園芸技術の中で、有機物を利用した土つくりについて学ぶ。
第4回	０４．環境保全園芸技術〔２〕施肥法 環境保全園芸技術の中で、肥料の形態と施肥方法について学ぶ。
第5回	０５．環境保全園芸技術〔３〕防除法（１） 園芸生産における病害虫・雑草防除の現状について学ぶ。
第6回	０６．環境保全園芸技術〔３〕防除法（２） IPMの考え方と環境保全型の病害虫・雑草の防除手法について学ぶ。
第7回	０７．環境保全園芸技術〔４〕リサイクル 園芸生産から排出される有機性資源の再利用について学ぶ。
第8回	０８．蔬菜園芸における環境保全 日本の野菜生産の現状と環境上の問題点について学ぶ。
第9回	０９．蔬菜園芸に特徴的な環境保全技術（１）露地栽培 野菜の露地栽培で利用可能な環境保全技術について学ぶ。
第10回	１０．蔬菜園芸に特徴的な環境保全技術（１）施設栽培 野菜の施設栽培で利用可能な環境保全技術について学ぶ。
第11回	１１．果樹園芸における環境保全 日本の果実生産の現状と環境上の問題点について学ぶ。
第12回	１２．果樹園芸に特徴的な環境保全技術 果樹の栽培で利用可能な環境保全技術について学ぶ。
第13回	１３．温暖化が果樹園芸に及ぼす影響 地球の温暖化と果樹栽培のかかわりについて学ぶ。
第14回	１４．花卉園芸における環境保全 日本の花き生産の現状と環境上の問題点について学ぶ。
第15回	１５．花卉園芸に特徴的な環境保全技術 花きの栽培で利用可能な環境保全技術について学ぶ。
授業の達成目標	野菜・果樹・花きなど園芸生産における環境上の問題を理解し、自然生態系を踏まえた適切な植物栽培を実践できる技術的な知識（栽培管理と技術指導）を得る。

学位授与方針(DP)との関連	1.知識・理解を応用し活用する能力－(1)／2.汎用的技能を応用し活用する能力－(1)／3.人間力、社会性、国際性の涵養－(1)／3.人間力、社会性、国際性の涵養－(2)
授業時間外学習【予習】	次回の授業項目をアナウンスするので、図書室等を利用して各自で予習を行う。(30分程度)
授業時間外学【復習】	授業ノートおよび配布資料を参考に、受講生各自で毎回復習する。(1時間程度) なお、不明箇所については、授業の前後またはオフィスアワー等を利用して担当教員に質問すること。
課題に対するフィードバック	受講生からでた講義内容の質問およびその回答については、授業中に受講生全員にアナウンスして共有化する。 １５回授業の節目で要点を振り返ることにより、本授業の目的と現在の位置づけを受講生が認識する。
評価方法・基準	定期試験（80%）を実施し、途中の課題提出および受講態度等（20点）を含めて総合的に評価する。
テキスト	授業に携帯する市販の教科書は特に定めない。 講義内容に関する資料や参考となる図書を都度配布・紹介する。
参考書	授業の進展にそって、関連する参考書や資料等を適宜紹介する。
備考	